

第2分科会 不登校児童生徒への支援の在り方

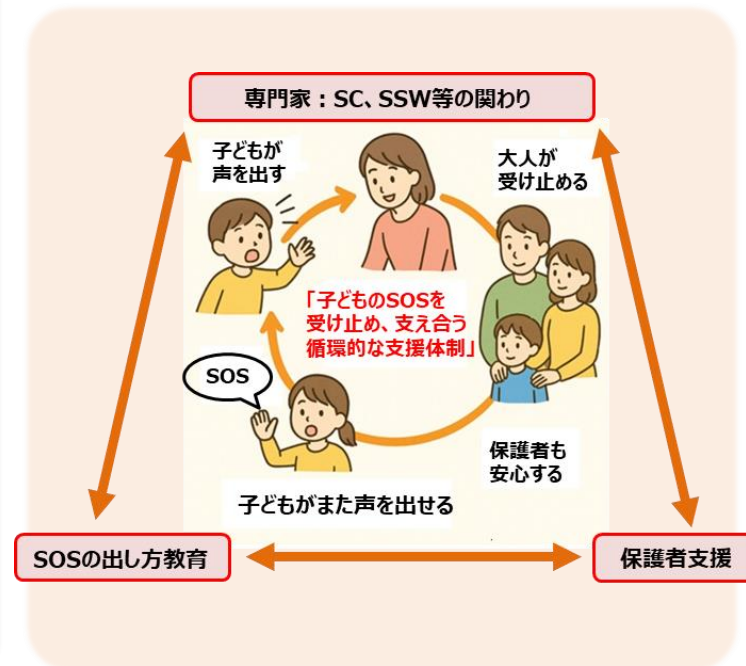
大阪府教育庁市町村教育室
小中学校課生徒指導グループ

～子どもが安心して「話せる」、大人が「受け止める」支援体制の実現に向けて～

**子どもが安心して「話せる」、大人がしっかりと「受け止める」
今、押さえるべき不登校支援の在り方から、明日からの実践につなげるヒントを探ります。**

国の「問題行動・不登校等調査」における不登校の要因把握につながる項目では、「やる気が出ない」「不安」等の回答が小中学校ともに半数を超えており、教職員にとって不登校になる子どもの状況が見えにくくなっていることが伺えます。子どものサインに早く気づくためには、子どもが自身のことを安心して「話せる」こと、その思いなどを大人がしっかりと「受け止める」体制が校内に位置づけることが大切だといえます。

そこで、このような支援のきっかけとなる「**SOSの出し方に関する教育**」をS Cとともにどう学校が作りあげるか、どのように子どもに働きかければいいのかについて具体的な実践等をお伝えします。また、昨今の傾向である不登校となる時期の低年齢化や、それに伴う保護者の不安の高まりに対して、市町村教育支援センターや学校がS S W等とともに行う取組みについても紹介し、これからの不登校支援の在り方について、ともに考える場とします。



実践発表

昨今の不登校の傾向に即した
校園種間連携と保護者支援の実践から

市町村教育支援センター、小中学校より

講演 ワーク

子どものサインに早く気づくための
「SOSの出し方に関する教育」の実践から

大阪府公立学校スクールカウンセラーより